

令和２年度 静岡県立総合病院 空調設備保守点検業務委託契約書

地方独立行政法人静岡県立病院機構静岡県立総合病院（以下、「甲」という。）と
（以下、「乙」という。）との間に次の委託契約を締結する。

（契約の目的と基本的義務）

第１条 甲は、乙に対し本契約に定めるところにより業務の完成又は処理を請け負わせ、乙は自己の裁量と責任で業務を完遂する義務を負う。

２ 甲は、委託者として乙が本契約を遂行するのに必要な協力を行う。

（契約の目的及び範囲）

第２条 甲は、次の業務（以下「委託業務」という。）の処理を乙に委託し、乙はこれを受託する。

（１）委託業務の内容

本院の空調設備の定期点検及び不意の故障時の臨時点検とし、詳細は、別紙「静岡県立総合病院空調設備保守点検業務仕様書」及び付帯文書（以下、「仕様書等」という。）に定める。

（２）対象設備

ア 所在地 静岡市葵区北安東４丁目２７番１号 静岡県立総合病院内

イ 対象設備 本院に設置された空調機器及び付属設備 １式

（委託契約期間）

第３条 この契約の期間は令和２年４月１日から令和３年３月３１日までとする。ただし、業務は原則として仕様書等に定める期間に実施するものとする。

（申出義務）

第４条 乙はこの契約締結後の事情の変化により、この委託業務を遂行することが困難となり、若しくは甲に不利となるような事情が生じたときは、その都度、甲に申し出て必要な指示を受けなければならない。

（委託業務年間実施計画書等の提出）

第５条 乙は仕様書等に定めた期日までに委託業務年間実施計画書、委託業務実施計画書及び実施結果報告書を甲に提出しなければならない。

（検収及び瑕疵担保責任）

第６条 甲は乙から委託業務実施結果報告書が提出されてから１０日以内に作業内容について検収を実施し、可否を乙に通知する。

２ 乙は前項の検収の結果不合格となった時は、遅滞なく再作業を実施する。

３ 第１項の検収に合格した場合も、後日、乙の責任に帰すべき事由による不良箇所が判明した場合は、乙の責任において直ちに再作業するものとする。

（委託料及び支払方法）

第７条 甲は、乙に対して委託業務を処理するための費用（以下「委託料」という。）として金
円（うち消費税及び地方消費税額 円）を支払うものとする。

２ 乙は委託業務について甲の行う検収に合格した後に、請求書を提出するものとする。甲は請求書を受理してから３０日以内に委託料を支払うものとする。

3 委託料の支払いは次に掲げるとおりとする。

(1) 空調設備保守点検業務は、下表のとおり分割して支払う。

前期(4～9月)業務終了後	後期(10～3月)業務終了後
金 円 (うち消費税及び地方消費税額 円)	金 円 (うち消費税及び地方消費税額 円)

(2) フロンガス定期点検業務は、下表のとおり業務終了後に支払う。

フロンガス定期点検終了後
金 円 (うち消費税及び地方消費税額 円)

(3) 北館吸収式冷温水発生機冷却水回路整備業務は、下表のとおり業務終了後に支払う。

北館吸収式冷温水発生機冷却水回路整備終了後
金 円 (うち消費税及び地方消費税額 円)

4 甲は請求書を受理した後であっても第6条に定める瑕疵が発見された場合、甲は委託料の支払いを拒む、又は既に支払った委託料の返還を求めることができる。

(再委託及び権利義務の譲渡等)

第8条 乙は、委託業務を第三者に再委託してはならない。ただし、甲の承認を得た場合は業務の一部について再委託できる。

2 前項により再委託が認められた場合も、委託業務はすべて乙の責任において実施する。

3 乙は、第三者に対してこの契約によって生じる権利・義務を譲渡し又は継承させてはならない。但し、甲の承認を得た場合はこの限りではない。

(法令上の責任)

第9条 乙は、乙の従業員に対して雇用主として労働安全衛生法他、その他従業員に対する関係法令上の責任をすべて負い、甲に対して一切の責任及び迷惑等を及ぼしてはならない。

(現場責任者等)

第10条 乙は次の事項について乙の従業員を直接指揮命令する責任者を選任し甲に報告する。甲は、病院及び患者等の安全確保等やむを得ない場合を除いて、乙の従業員に直接指揮命令を行えないものとする。

(1) 委託業務の処理

(2) 委託業務の履行に関する甲との連絡及び調整

(事故報告)

第11条 乙は委託業務の処理中に事故が発生した場合は、速やかに甲に報告するものとする。

(立会及び監督)

第12条 甲は、必要があると認められるときは、委託業務の処理について立会い、その履行状況について監督することができる。

(秘密の保持)

第13条 乙は委託業務を処理する上で知り得た秘密及び病院事務に関する事項を第三者に漏らしてはならない。

(個人情報の保護)

第14条 乙は、この契約による業務を処理するため個人情報を取り扱う場合は、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。

(契約の変更)

第15条 甲又は乙は、天災その他その責めに帰さない理由により、本契約を変更しようとするときは、その理由を記載した書面を提出し、相手方の承諾を得るものとする。

(契約の解除)

第16条 甲又は乙は、天災その他その責めに帰さない理由により、この契約を解除しようとするときは、その理由を記載した書面により、その相手方に申し出なければならない。

2 甲は、次のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

- (1) 乙が、委託契約期間内に契約を履行しないとき若しくは履行の見込みがないと認められるとき（乙の信用が著しく悪化した場合を含む。）。
- (2) 甲がこの契約について乙の不正の事実を発見したとき。
- (3) 乙が故意又は重大な過失により甲に損害を与えたとき。
- (4) この契約締結後の事情変化により、委託業務を処理させる必要がなくなったとき。

3 前項のほか、甲は乙が次の(1)から(7)のいずれかに該当した場合は、契約を解除することができる。

- (1) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「法」という。）第2条第2号に該当する団体（以下「暴力団」という。）
- (2) 個人又は法人の代表者が暴力団員等（法第2条第6号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）又は暴力団員でなくなった日から5年を経過しない者をいう。以下同じ。）である者
- (3) 法人の役員等（法人の役員又はその支店若しくは営業所を代表する者で役員以外の者をいう。）が暴力団員等である者
- (4) 自己、自社若しくは第三者の不正な利益を図る目的又は第三者に損害を与える目的をもって暴力団又は暴力団員等を利用している者
- (5) 暴力団若しくは暴力団員等に対して、資金等提供若しくは便宜供与する等直接的又は積極的に暴力団の維持運営に協力し又は関与している者
- (6) 暴力団又は暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有している者
- (7) 相手方が暴力団又は暴力団員等であることを知りながら、下請契約、資材又は原材料の購入契約その他の契約を締結している者

4 甲又は乙は、正当な理由により3か月の予告期間を持ってこの契約の解除をその相手方に申し出たときは、この契約を解除することができる。

(損害賠償責任)

第17条 乙は、次に掲げる一の原因が生じたときには、その損害を被害者に賠償しなければならない。

- (1) 乙が委託業務の実施に関し、甲又は第三者に損害を与えたとき。
- (2) 前条の定めによりこの契約が解除された場合において、乙が甲に損害を与えたとき。

(委託料の処理)

第18条 第16条の各項によりこの契約が解除された場合の委託料の処理は、甲が認める既履行部分に相当する金額をもって精算する。

(合意管轄)

第19条 この契約に関する訴訟については、静岡地方裁判所を管轄裁判所とすることに合意する。

(定めのない事項の処理)

第20条 この契約に定めのない事項については、法令に定めるところによるほか、必要な事項については甲、乙協議の上決定する。

上記の契約の成立を証するため、この契約書2通を作成し、甲、乙記名押印の上、各自その1通を所持する。

令和 年 月 日

(甲) 静岡市葵区北安東4丁目27番1号
地方独立行政法人静岡県立病院機構
静岡県立総合病院 院長 田中 一成

(乙)

個人情報取扱特記事項

第1 基本的事項

乙は、この契約による業務を処理するため個人情報を取り扱うに当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の適正な取扱いに努めなければならない。

第2 取得の制限

乙は、この契約による業務を処理するため個人情報を取得するときは、適法かつ適正な方法により取得しなければならない。

第3 安全管理措置

乙は、個人情報の漏えい、滅失又はき損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

第4 従業員の監督

乙は、その従業者に個人情報を取り扱わせるに当たっては、当該個人情報の安全管理が図られるよう、当該従業者に対する必要な監督を行わなければならない。

第5 再委託の禁止

乙は、甲の同意がある場合を除き、個人情報の取扱いを第三者に委託してはならない。

第6 複写又は複製の禁止

乙は、甲の同意がある場合を除き、この契約による業務を処理するため甲から提供された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

第7 資料等の廃棄

乙は、この契約による業務を処理するため甲から提供を受け、又は乙自らが作成し若しくは取得した個人情報が記録された資料等を、この契約終了後直ちに廃棄するものとする。ただし、甲が別に指示したときは、その指示に従うものとする。

第8 目的外利用・提供の禁止

乙は、甲の同意がある場合を除き、本業務以外の目的のために個人情報を自ら利用し、又は提供してはならない。

第9 取扱状況の報告等

甲は、必要があると認めるときは、個人情報の取扱状況を乙に報告させ、又は自らその調査をすることができる。

第10 事故発生時における報告

乙は、この契約に違反する事態が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、直ちに甲に報告し、甲の指示に従わなければならない。

静岡県立総合病院空調設備保守点検業務仕様書

1 概要

この仕様書は、静岡県立総合病院空調設備保守点検業務委託契約書第2条の規定に基づき、必要な事項を定めるものである。

2 概要・目的

静岡県立総合病院の施設の内、空調設備の保守点検を行い、その円滑な運転を図ることを目的として行うものである。

3 疑義

仕様書及び図面その他に関する疑義の点は予め契約前に明確にしておくものとし、契約後疑義を生じた場合は甲の指示に従わなければならない。

4 施工の原則

- (1) 本業務は、契約書、設計書及び仕様書に基づいて、監督員の指示に従い誠実に施工しなければならない。
- (2) 業務の実施にあたっては、関係する諸法令を遵守し、乙の負担と責任において行うものとする。
- (3) 作業の中で、関係官公署、その他の者に対する届出、報告を要する場合、乙は迅速に対応するとともに、必要な書類を作成しなければならない。
- (4) 作業を実施する上で、関係官公署、その他の者に対して交渉を要するときは、乙は遅滞なくその旨を甲に申し出て協議するものとする。
- (5) 作業の結果、機能に支障をきたす事項があると判断した場合はただちに甲に報告し、協議の上、速やかに補修、その他所要の措置を行うものとする。

5 請負人負担

次の各号に掲げる費用は乙の負担とする。

- (1) 軽微な事項で設計書・図面又は仕様書になくとも、施工上欠くことができない材料・機器及び作業の費用
- (2) 軽微な事項で施工上障害となる物の撤去及び工事によって発生した後片付けに要する費用
- (3) 作業の為、第三者に与えた損害で請負人の責に帰すべきものの賠償に要する費用又は既設工作物に与えた損害の復旧費用
- (4) 各種試験検査に要する費用
- (5) 補修塗装に要する費用
- (6) 報告書・写真等に要する費用
- (7) 軽微な事項で、工事中の危険防止に要する費用

6 損害補償

作業は誠意をもって慎重に行うものとし、万一構造物又は機器に損害等を与えた場合は、速やかに甲に連絡して指示を受けると共に、乙の責任において事故復旧するものとする。

7 作業日時

- (1) 原則として8時30分から17時00分までとする。
- (2) 作業を実施する30日前までに協議して作業日程を決定し、業務実施計画書を提出すること。
- (3) 上記の作業日程については、設備の運転状況により変更することがあるため、作業日の前日に再度確認すること。

8 現場管理

作業中は、障害・火災その他事故発生を未然に防止することは勿論、労働基準法及び関係法

規を守り、円滑に作業・整備を行わなければならない。万一、事故を起こした場合は乙の責任において処理することとする。

9 作業員

- (1) 乙は作業に当たり十分な技術・経験を有する作業員を派遣し、秩序正しく行わなければならない。
- (2) 派遣した作業員が著しく不相当と認められた場合、乙は契約解除事由に相当すると認識し、誠意をもって対応するものとする。

10 後片付け

- (1) 使用工具の置き忘れ、ビス・ナットの脱落・残材の未処理等は、機器の二次的な事故の原因となるので最終確認を十分行うこと。
- (2) 作業箇所の清掃、後片付けを十分行うこと。

11 委託業務年間実施計画書

乙は契約締結から14日以内に別紙1の様式により委託業務年間実施計画書を作成して、甲に提出し承認を得ること。なお、提出部数は2部とする。

12 委託業務実施計画書

乙は業務を実施する30日前までに別紙2の様式により委託業務実施計画書を作成して、甲に提出し承認を得ること。契約締結から30日に満たない期間に業務を実施する場合は、契約締結後速やかに提出すること。なお、提出部数は2部とする。

13 委託業務実施結果報告書

乙は業務終了後30日以内又は令和3年3月31日のいずれか早い日までに、別紙3の様式により委託業務実施結果報告書を作成し、作業内容及び確認された問題箇所等を明瞭にした書類及び作業の概要がわかる写真等を必要に応じて添付して、甲に提出すること。なお、提出部数は2部とする。

14 再作業

委託業務完了後といえども作業に脱落があった場合、又は指摘された場合は、速やかに責任をもって再作業しなければならない。

15 対象設備及び点検整備項目等

- (1) 対象設備 下表のとおり

設置場所	対象設備	台数	対象設備	台数
本館	吸収式冷温水発生機 (パナソニック BUW-WE360FG)	1	吸収式冷温水発生機 (パナソニック BUW-300FGJ)	2
	吸収式冷温水発生機 (パナソニック BUW-300FC)	1	ターボ式冷凍機 (荏原 RTAS300E)	1
	空冷チラーユニット (三菱 CAV-P1180A2-P-BS)	2	空冷チラーユニット (三菱 CAV-P850A2-P-BS)	2
北館	吸収式冷温水発生機 (パナソニック AUW-150E1G)	2	空冷チラーユニット (日立 RHUJ1800AZG)	3
PETセンター	空冷チラーユニット (三洋 SCP-AHP500C)	4		
先端医学棟	吸収式冷温水発生機 (パナソニック BW-CP210FG1)	2	空冷チラーユニット (三菱 CAV-P850A-P)	6

- (2) 実施内容

各機器の定期点検及び不意の故障時の臨時点検とし、詳細内容は各個別仕様書に定める。
なお、点検時に対処可能な軽微な事項(増締、潤滑油の塗布、簡単な清掃)は個別仕様書に記載がなくとも実施すること。

(3) その他

ア 臨時点検については、甲の連絡から60分以内の対応を心がけること。

イ 点検の結果、メーカーによる修繕が必要になった場合は、乙の了承を得てから実施すること。ただし、病院の機能維持のため、緊急に修繕が必要な場合はこの限りではない。

16 費用分担

(1) 定期点検及び臨時点検に要する作業員の派遣費用は乙の負担とする。

(2) 保守点検に必要な一般消耗品は乙の負担とする。

(3) 上記以外の費用は、特記のないかぎり甲の負担とする。

17 特記事項

(1) 乙は、各機器の製造メーカー又は保守代理店と同等の保守を実施すること。

(2) 前項を実施するために再委託が必要な場合は、第8条に定めるとおり、別紙4の様式により業務再委託実施承認願を提出し、甲の承認を得ること。

18 その他

(1) この契約に定める事項に変更があった場合は、軽微なものについては甲乙協議の上、乙は業務を遂行する。

(2) この仕様書に記載のない事項は、関係法令、電気設備工事共通仕様書及び機械設備工事共通仕様書の定めるところによる外、甲乙協議して決定する。

吸収式冷温水発生装置（パナソニック製）保守点検業務個別仕様書

1 対象設備

機種・設置場所	数量	機種・設置場所	数量
BUW-WE360FG (本館熱源機械室設置)	1	BUW-300FGL (本館熱源機械室設置)	2
BUW-300FC (本館熱源機械室設置)	1	AUW-150E1G (北館屋上設置)	2
BW-CP210FG1 (先端医学棟 6 階機械室設置)	2		

2 実施項目

実施内容	実施時期	備考
暖房シーズンオフ点検	4 月	実施内容については、「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。
冷房シーズンイン点検	5 月	
冷房シーズンオン点検	8 月	
冷房シーズンオフ点検	10 月	
暖房シーズンイン点検	11 月	
暖房シーズンオン点検	1 月	
冷却水系ブラシ洗浄	5 月	
クーリングタワー点検	5, 11 月	実施内容については、「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。
クーリングタワー清掃	5, 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・水槽内床面の水垢及びスライムの清掃 ・清掃残さの廃棄処理 ・水槽壁面フィリング部汚れの高圧洗浄 ・ファンの羽根に付着した汚れの清掃 ・ボールタップ清掃及び作動確認 ・ストレーナー清掃

3 実施内容

「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。

直だき吸収式冷温水発生機	
<p>消防法に基づく各地方条例、「危険物の規制に関する政令」、「危険物の規制に関する規則」、「ガス事業法」及び「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」の定めるところによる。</p> <p>本項の直だき吸収冷温水発生機は、冷凍能力が単体で186 k W（160, 000kcal/h）以上のものであって、燃料としてガス又は油を使用するものに適用する。</p>	
点検項目シーズンイン点検	
(1) 基礎・固定部	①亀裂、沈下等の有無を点検する。 ②固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。
(2) 外観の状況	①本体部の腐食、変形、破損等の有無を点検する。 ②保温材、保冷材の損傷及び脱落の有無を点検する。
(3) 付属品	①温度計・圧力計 a. 正常値を指示している事を確認する。 b. 取付け部等の漏れの有無を点検する。 c. 汚れ及び損傷の有無を点検する。 ②付属弁 a. 弁の開閉の良否を点検する。

	b. 調整弁が、冷房又は暖房運転時の調整開度であることを確認する。
(4)動力盤	①冷房又は暖房の切換えが正しいことを確認する。 ②絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ③作動の良否を点検する。
(5)電気系統	①操作回路・ヒーター回路・電動機回路（キャンドポンプ、抽気ポンプ、ブロワーファン、油ポンプ） 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。30V未満の回路は除く。 ②端子 緩み、変色及び損傷の有無を点検する。 ③タイマー 起動制限、遅延、その他のタイマーが設定値で作動することを確認する。 ④サーマルリレー キャンドポンプ、抽気ポンプ、ブロワー及び油ポンプ用サーマルリレーの設定値を確認する。 ⑤電極棒 機能を点検する。 ⑥操作盤 盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。 ⑦接地 断線及び緩みの有無を点検する。
(6)保安装置	①作動試験 リレー及び保護装置が規定値で作動することを確認する。（実作動が困難な場合は擬似回路としてもよい） ②インターロック 作動の良否を点検する。
(7)燃焼装置	①燃料系統配管 a. 油燃料の場合は、油配管継手部からの油の滴下のないことを確認する。 b. ガス燃料の場合は、（社）日本冷凍空調工業会規格 J R A 4004（ガス吸収冷温水機安全基準）に定められた方法により外部漏れを確認する。 ②弁 a. 油燃料の場合は、電磁弁非通電時にノズルからの油垂れが無い事を確認する。 b. ガス燃料の場合は、（社）日本冷凍空調工業会規格 J R A 4004（ガス吸収冷温水機安全基準）に示す方法による弁越リーク量が基準以内であることを確認する。 c. ガス燃料の場合は、電動ボール弁、主遮断弁及びパイロット電磁弁の開閉の良否を点検する。 d. 異常時に規定値で作動することを確認する。（実作動が困難な場合は擬似回路としてもよい） e. 通電時にチャタリング、過熱、異常音等の異常のないことを確認する。 ③バーナー a. 耐火材の亀裂及び欠損の有無を点検する。 b. 点火トランス、電極棒及び高圧リード線の損傷等の劣化及び絶縁碍子の亀裂の有無並びに絶縁の良否を確認する。 ③リンク機構 a. 動作の良否を点検する。 b. ボールジョイントの緩み及び損傷の有無を点検する。 ④火炎検知器 a. 光電セル又は紫外線検出方式は、受光面の汚れ、亀裂等の有無並び

	<p>に絶縁の良否を確認する。</p> <p>b. フレームロッド方式は、汚れ及び絶縁碍子の亀裂の有無並びに絶縁の良否を確認する。</p> <p>⑤ストレーナー 詰り、損傷等の有無を点検する。</p> <p>⑥地震感知器 直だき吸収冷温水機運転時に作動テストを行い、自動的に燃焼が停止することを確認する。</p>
(8) 冷温水及び冷却水系統	<p>①出口及び入口の圧力損失が規定値内にあることを確認する。</p> <p>②各水室部に水漏れのないことを確認する。</p> <p>③暖房時前の場合は、冷却水系の水抜き確認を行う。</p>
(9) 運転調整	<p>①音・振動 異常のないことを確認する。</p> <p>②電圧・電流 a. 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。 b. 運転電流が規定値以下であることを確認する。</p> <p>③電動機 電動機の回転方向が正しいことを確認する。</p> <p>④温度制御 設定温度で作動することを確認する。</p> <p>⑤燃焼制御 プレバージ時間、着火タイミング、失火動作指令等の作動の良否を点検する。</p> <p>⑥燃焼状態 a. 正常に着火することを確認する。 b. メインバーナーの火炎が安定しており、異常振動及び異常音がないことを確認する。 c. フレーム電流を測定し、その良否を確認する。 d. 排ガス中の酸素濃度及び一酸化炭素濃度、排ガス温度、ドラフト、燃料圧力、燃料消費量等を測定し、その値が規定の許容範囲内にあることを確認する。なお、油だきはスモークスケールの有無を点検する。</p> <p>⑦熱交換器 a. 冷水及び冷却水の入口温度及び出口温度、溶液温度、溶液濃度、凝縮温度、蒸発温度等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 b. 不凝縮ガスの混入及び冷却管の汚れの有無を点検する。</p>
(10) 真空気密	<p>①抽気ポンプ a. 起動時に固着及び異常音がなく、抽気能力に異常のないことを確認する。 b. ベルトの張りの良否及び油面の適否を点検する。</p> <p>②抽気系統 抽気用弁を手動で全開にし、真空計の変化から開通していることを確認する。</p> <p>③パラジウムセルユニット パラジウムセル部の焼損及び劣化の有無を点検する。</p> <p>④リーク試験 抽気ポンプで機内に不凝縮ガスのないことを確認する。</p>
(11) 冷媒・吸収剤	<p>①攪拌した溶液を適量採取して腐食防止剤濃度及びアルカリ度が規定の許容範囲内にあることを確認する。</p> <p>②溶液に汚れがないことを確認する。</p>
点検項目 シーズンオン点検	

(1)基礎・固定部	取付け状態を点検する。
(2)外観の状況	①本体 腐食、変形、破損等の有無を点検する。
(3)付属品	①温度計・圧力計 a. 正常値を指示している事を確認する。 b. 取付け部等の漏れの有無を点検する。 c. 汚れ及び損傷の有無を点検する。
(4)燃焼装置	①弁 a. 油燃料の場合は、電磁弁非通電時にノズルからの油垂れが無い事を確認する。 b. ガス燃料の場合は、(社)日本冷凍空調工業会規格J R A 4004 (ガス吸収冷温水機安全基準) に示す方法による弁越リーク量が基準以内であることを確認する。 c. ガス燃料の場合は、電動ボール弁、主遮断弁及びパイロット電磁閉の良否を点検する。 d. 異常時に規定値で作動することを確認する。(実作動が困難な場合は擬似回路としてもよい) e. 通電時にチャタリング、過熱、異常音等の異常のないことを確認する。 ②リンク機構 動作の良否を点検する。
(5)運転調整	①音・振動 異常のないことを確認する。 ②電圧・電流 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。 ③電動機 電動機の回転方向が正しいことを確認する。 ④温度制御 設定温度で作動することを確認する。 ⑤燃焼制御 プレパージ時間、着火タイミング、失火動作指令等の作動の良否を点検する。 ⑥燃焼状態 a. 正常に着火することを確認する。 b. メインバーナーの火炎が安定しており、異常振動及び異常音がないことを確認する。 c. フレーム電流を測定し、その良否を確認する。 d. 排ガス中の酸素濃度及び一酸化炭素濃度、排ガス温度、ドラフト、燃料圧力、燃料消費量等を測定し、その値が規定の許容範囲内にあることを確認する。なお、油だきはスモークスケールの有無を点検する。 ⑦熱交換器 冷水及び冷却水の入口温度及び出口温度、溶液温度、溶液濃度、凝縮温度、蒸発温度等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。
(6)真空気密	①抽気ポンプ a. 起動時に固着及び異常音がなく、抽気能力に異常のないことを確認する。 b. ベルトの張りの良否及び油面の適否を点検する。 ②抽気系統 抽気用弁を手動で全開にし、真空計の変化から開通していることを確認する。

	③パラジウムセルユニット パラジウムセル部の焼損及び劣化の有無を点検する。 ④リーク試験 抽気ポンプで機内に不凝縮ガスのないことを確認する。
(7)冷媒・吸収剤	①攪拌した溶液を適量採取して腐食防止剤濃度及びアルカリ度が規定の許容範囲内にあることを確認する。 ②溶液に汚れがないことを確認する。
冷却塔（クーリングタワー）	
建物の屋上に設置された冷却塔は、「建築基準法施工令」に基づく告示に定めるところによる。	
点検項目シーズンイン点検	
(1)基礎・固定部	①亀裂、沈下等の有無を点検する。 ②基礎ボルトの緩み及び劣化の有無を点検する。 ③防振装置の損傷等の有無を点検する。 ④防振ストッパーの緩み及び劣化の有無を点検する。
(2)外観の状況	①本体 損傷、変形及び汚れの有無を点検する。 ②散水装置 a. 損傷、変形、さび及び汚れの有無を点検する。 b. 散水穴の目詰まりの有無を点検する。 c. 散水管の回転が円滑であることを確認する。 ③熱交換器（密閉形に限る） コイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。 ④エリミネーター 損傷、変形及び目詰まりの有無を点検する。 ⑤ルーバ 損傷、変形及び目詰まりの有無を点検する。 ⑥充填材 a. スケール等の付着の有無を点検する。 b. 目詰まりの有無を点検する。 c. 座屈、変形等の有無を点検する。 ⑦架台 a. 損傷、変形等の有無を点検する。 b. 固定金具の劣化及び組み立てボルトの緩みの有無を点検する。 ⑧梯子・点検扉 損傷、変形、腐食等の有無を点検する。
(3)水槽	①本体 a. 内外面の損傷、変形及び汚れの有無を点検する。 b. 水漏れの有無を点検する。 c. 水位が規定の位置にあることを確認する。 ②給水装置 ボールタップ等が確実に作動することを確認する。 ③ストレーナー 目詰まり、損傷等の有無を点検する。 ④フレキシブルジョイント 接続部の緩み、腐食等の有無を点検する。
(4)送風機	①羽根車 a. 損傷、腐食、汚れ等の有無を点検する。 b. 回転に支障のないことを確認する。 ②ファンケーシング 損傷、腐食等の有無を点検する。 ③軸受 a. 軸が円滑に回転することを確認する。

	b. 油量の適否を点検する。 ④電動機 a. 損傷、腐食等の有無を点検する。 b. 円滑に回転することを確認する。 c. 絶縁抵抗値を測定し、その良否を確認する。 ⑤ベルト a. 張り具合の適否を点検する。 b. 損傷及び磨耗の有無を点検する。 ⑥プーリ 損傷、摩擦等の劣化の有無を点検する。
(5) 散水ポンプ (密閉形に限る)	①本体 汚れ、損傷、腐食等の有無を点検する。 ②電動機 a. 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 b. 回転方向が正しいことを確認する。 c. 電流が定格値内であることを確認する。
(6) 凍結防止装置	①サーモスタットが設定値で作動することを確認する。 ②ヒーターの作動電流が定格電流以下にあることを確認する。 ③ヒーターの絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。
(7) 運転調整	①電動機の回転方向が正しいことを確認する。 ②異常音及び異常振動のないことを確認する。 ③電源電圧の変動が規定値内にあることを確認する。 ④運転電流が定格値以下にあることを確認する。 ⑤散水管の回転数が許容範囲内にあることを確認する。 ⑥散水が均一に分散していることを確認する。 ⑦水槽の水位が運転前及び運転状態が適正であることを確認する。
点検項目シーズンオフ点検	
(1) 外観の状況	①本体 損傷、変形及び汚れの有無を点検する。 ②散水措置 a. 損傷、変形、さび及び汚れの有無を点検する。 b. 散水穴の目詰まりの有無を点検する。 c. 散水管の回転が円滑であることを確認する。 ③熱交換器（密閉形に限る） コイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。 ④エリミネーター 損傷、変形及び目詰まりの有無を点検する。 ⑤ルーバ 損傷、変形及び目詰まりの有無を点検する。 ⑥充填材 a. スケール等の付着の有無を点検する。 b. 目詰まりの有無を点検する。 c. 座屈、変形等の有無を点検する。 ⑦架台 a. 損傷、変形等の有無を点検する。 b. 固定金具の劣化及び組み立てボルトの緩みの有無を点検する。 ⑧梯子・点検扉 損傷、変形、腐食等の有無を点検する。
(2) 水槽	①本体 a. 内外面の損傷、変形及び汚れの有無を点検する。 b. 水漏れの有無を点検する。 ②給水装置 ボールタップ等が確実に作動することを確認する。

	<p>③ストレーナー 目詰まり、損傷等の有無を点検する。</p> <p>④フレキシブルジョイント 接続部の緩み、腐食等の有無を点検する。</p>
(3)送風機	<p>①羽根車 a. 損傷、腐食、汚れ等の有無を点検する。 b. 回転に支障のないことを確認する。</p> <p>②ファンケーシング 損傷、腐食等の有無を点検する。</p> <p>③軸受 軸が円滑に回転することを確認する。</p> <p>④電動機 円滑に回転することを確認する。</p> <p>⑤ベルト a. 張り具合の適否を点検する。 b. 損傷及び磨耗の有無を点検する。</p> <p>⑥プーリ 損傷、摩擦等の劣化の有無を点検する。</p>
(4)散水ポンプ (密閉形に限る)	<p>①本体 汚れ、損傷、腐食等の有無を点検する。</p>
(5)シーズンオフ 時の保存	<p>器内の水を確実に抜いたうえ保存する。</p>

ターボ式冷凍機（荏原製・冷専仕様）保守点検業務個別仕様書

1 対象設備

機種・設置場所	数量
RTAS300E (本館熱源機械室設置)	1

2 実施項目

実施内容	実施時期	備考
冷房シーズンイン点検	5, 11月	実施内容については、「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。
冷房シーズンオン点検	7, 2月	
チューブ洗浄	5月	
クーリングタワー点検	5, 11月	吸収式冷温水発生装置に同じ
クーリングタワー清掃	5, 7, 11, 2月	吸収式冷温水発生装置に同じ

3 乙が負担する部品類

油ストレーナエレメント	フィルタードライヤコア	潤滑油
冷媒フィルターエレメント	各Ｏリング及びガスケット	

4 実施内容

「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。

遠心冷凍機

「高圧ガス保安法」の適用を受けるものは、同法及び「冷凍保安規則」の定めるところによる。

点検項目 シーズンイン点検

(1) 基礎・固定部	①亀裂、沈下等の有無を点検する。 ②固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みを点検する。 ③防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。
(2) 外観の状況	①本体部の腐食、変形、破損等の有無を点検する。 ②保冷材の脱落、破損等の有無を点検する。
(3) 内部の状況	機内の圧力が許容範囲内にあることを確認する。
(4) 付属品	①温度計・圧力計 a. 正常値を指示していることを確認する。 b. 取付け部等の漏れの有無を点検する。 c. 汚れ及び損傷の有無を点検する。
(5) 電気系統	①主電動機・高圧盤 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ②操作回路・ヒーター回路・電動機回路 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。(30V未満の回路は除く) ③タイマー 起動制限、遅延、その他のタイマーが設定値で作動することを確認する。 ④端子 緩み、変色及び破損の有無を点検する。 ⑤操作盤 盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。

	⑥遮断器・接点・アークシューター 溶着、荒れ及び緩みの有無を点検する。 ⑦接地 断線及び緩みの有無を点検する。
(6)保安装置	①作動試験 保安装置が規定値で作動することを確認する。(実作動が著しく困難な場合は、擬似回路としてもよい) ②インターロック 作動の良否を点検する。
(7)冷媒系統	①汚れ又は遊離水分の有無を点検する。 ②冷媒量の適否を点検する。適否の判定は冷媒レベルゲージ及び運転時の蒸発圧力による。
(8)潤滑油系統	①油量の適否を点検する。 ②油の変色、白濁及び異臭の有無を点検する。
(9)冷水及び冷却水系統	①弁の開閉の良否を点検する。 ②冷水及び冷却水系統の各水室部に水漏れのないことを確認する。
(10)運転調整	①音・振動 異常のないことを確認する。 ②電動機・圧縮機 a. 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。 b. 主電流及び圧縮機電流が規定値以下にあることを確認する。 c. 電動機の回転方向が正しいことを確認する。 d. 電動機の冷却状態が正常であることを確認する。 e. 電動機が規定の時間で停止することを確認する。 ③潤滑油 a. 油面、油圧及び油温を計測し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 b. 油系統の漏れの有無を点検する。 c. 油系統に異常音及び異常振動がないことを確認する。 d. フィルターの詰りの有無を点検する。 ④凝縮器 a. 冷却水の出口及び入口温度、凝縮圧力等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 b. 不凝縮ガスの混入及び冷却管の汚れの有無を点検する。 ⑤蒸発器 a. 冷水の出口及び入口温度、蒸発圧力、冷媒液面等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 b. 冷却管の汚れの有無を点検する。 ⑥容量制御装置 冷水温度が規定値に制御され、ベーンダンパーの作動が円滑であることを確認する。 ⑦フロート弁・油戻し装置 正常に機能していることを確認する。 ⑧抽気装置 a. 抽気槽及び自動抽気装置の作動の良否を点検する。 b. 抽気槽内液の汚れ及び漏れの有無を点検する。
点検項目シーズンオン点検	
(1)基礎・固定部	取付け状態を点検する。
(2)外観の状況	本体部の腐食、変形、破損等の有無を点検する。
(3)付属品	①温度計、圧力計 a. 正常値を指示していることを確認する。 b. 取付け部等の漏れの有無を点検する。

	c. 汚れ及び損傷の有無を点検する。
(4)冷媒系統	冷媒量の適否を点検する。適否の判定は冷媒レベルゲージ及び運転時の蒸発圧力による。
(5)運転調整	<p>①音・振動 異常のないことを確認する。</p> <p>②電動機・圧縮機 a. 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。 b. 主電流及び圧縮機電流が規定値以下にあることを確認する。 c. 電動機の回転方向が正しいことを確認する。 d. 電動機の冷却状態が正常であることを確認する。</p> <p>③潤滑油 a. 油面、油圧及び油温を計測し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 b. 油系統の漏れの有無を点検する。 c. 油系統に異常音及び異常振動がないことを確認する。 d. フィルターの詰りの有無を点検する。</p> <p>④凝縮器 a. 冷却水の出口及び入口温度、凝縮圧力等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 b. 不凝縮ガスの混入及び冷却管の汚れの有無を点検する。</p> <p>⑤蒸発器 a. 冷水の出口及び入口温度、蒸発圧力、冷媒液面等を測定し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 b. 冷却管の汚れの有無を点検する。</p> <p>⑥容量制御装置 冷水温度が規定値に制御され、ベーンダンパーの作動が円滑であることを確認する。</p> <p>⑦フロート弁・油戻し装置 正常に機能していることを確認する。</p> <p>⑧抽気装置 a. 抽気槽及び自動抽気装置の作動の良否を点検する。 b. 抽気槽内液の汚れ及び漏れの有無を点検する。</p>

空冷チラーユニット（日立製作所製）保守点検業務個別仕様書

1 対象設備

機種・設置場所	数量
RHUI1800AZG (北館屋上設置)	3

2 実施項目

実施内容	実施時期	備考
冷房シーズンイン点検	5月	実施内容については、「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。
暖房シーズンイン点検	11月	

3 実施内容

「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。

冷熱源機器（チリングユニット、空冷チラーユニット）	
「高圧ガス保安法」の適用を受けるものは、同法及び「冷凍保安規則」に定めるところによる。	
点検項目 シーズンイン点検	
(1) 基礎・固定部	①亀裂、沈下等の有無を点検する。 ②固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。 ③防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。
(2) 外観の状況	①本体部の腐食、変形、破損等の有無を点検する。 ②保冷材の損傷及び脱落の有無を点検する。
(3) 内部の状況	①熱交換器 ファンコイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。
(4) 付属品	①温度計、圧力計 a. 正常値を指示していること確認する。 b. 取付け部等の漏れの有無を点検する。 c. 汚れ及び損傷の有無を点検する。 ②安全弁（年1回） 漏れの有無及び作動の良否を点検する。
(5) 電気系統	①操作回路・動力回路 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ②端子 緩み、変色及び破損の有無を点検する。 ③クランクケースヒータ a. 温度の異常の有無を点検する。 b. 絶縁抵抗を測定し、その良否を点検する。 ④操作盤 盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。 ⑤電磁開閉器 異常音及び劣化の有無を点検する。 ⑥接地 断線及び緩みの有無を点検する。
(6) 保安装置	①圧力開閉器 設定値で作動することを確認する。 ②吐出ガス温度サーモ 作動の良否を点検する。 ③断水リレー

	<p>作動の良否を点検する。</p> <p>④インターロック 作動の良否を点検する。</p> <p>⑤冷水凍結防止サーモ 作動の良否を点検する。</p> <p>⑥可溶栓 変形、破損等の有無を点検する。</p>
(7)冷媒系統	<p>①ガス漏れの有無を点検する。</p> <p>②配管の損傷、接触、磨耗、腐食等の有無を点検する。</p>
(8)潤滑油系統	油の汚れの有無及び油量の適否を点検する。
(9)冷水及び冷却水系統	<p>①漏れの有無を点検する。</p> <p>②弁の開閉の良否を点検する。</p>
(10)排水系統	通水試験を行い、流れに支障のないことを確認する。
(11)運転調整	<p>①音・振動 異常のないことを確認する。</p> <p>②電源電圧・電流 a. 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。 b. 主電流、圧縮機電流及び送風機電流が規定値以下にあることを確認する。</p> <p>③冷媒ガス 高圧側及び低圧側の圧力、温度等の冷媒ガスの状態を把握するために必要な計測を行い、その値が許容範囲内にあることを確認する。</p> <p>④冷凍機油 油圧、温度等を計測し、その値が許容範囲内にあることを確認する。</p> <p>⑤熱交換状況 冷媒、冷却水及び冷水の温度等を点検し、熱交換状況が正常であることを確認する。</p> <p>⑥自動制御 温度、圧力、容量及びタイマー制御が設定値で作動することを確認する。</p>

空冷チラーユニット（三洋電気空調製）保守点検業務個別仕様書

1 対象設備

機種・設置場所	数量
SCP-AHP500C (PETセンター屋上)	4

2 実施項目

実施内容	実施時期	備考
冷房シーズンイン点検	5月	実施内容については、「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。
暖房シーズンイン点検	11月	

3 実施内容

「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。

冷熱源機器（チリングユニット、空冷チラーユニット）	
「高圧ガス保安法」の適用を受けるものは、同法及び「冷凍保安規則」に定めるところによる。	
点検項目シーズンイン点検	
(1) 基礎・固定部	①亀裂、沈下等の有無を点検する。 ②固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。 ③防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。
(2) 外観の状況	①本体部の腐食、変形、破損等の有無を点検する。 ②保冷材の損傷及び脱落の有無を点検する。
(3) 内部の状況	①熱交換器 ファンコイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。
(4) 付属品	①温度計、圧力計 a. 正常値を指示していること確認する。 b. 取付け部等の漏れの有無を点検する。 c. 汚れ及び損傷の有無を点検する。
(5) 電気系統	①操作回路・動力回路 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ②端子 緩み、変色及び破損の有無を点検する。 ③クランクケースヒータ a. 温度の異常の有無を点検する。 b. 絶縁抵抗を測定し、その良否を点検する。 ④操作盤 盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。 ⑤電磁開閉器 異常音及び劣化の有無を点検する。 ⑥接地 断線及び緩みの有無を点検する。
(6) 保安装置	①圧力開閉器 設定値で作動することを確認する。 ②吐出ガス温度サーモ 作動の良否を点検する。 ③断水リレー 作動の良否を点検する。 ④インターロック

	<p>作動の良否を点検する。</p> <p>⑤冷水凍結防止サーモ 作動の良否を点検する。</p> <p>⑥可溶栓 変形、破損等の有無を点検する。</p>
(7)冷媒系統	<p>①ガス漏れの有無を点検する。</p> <p>②配管の損傷、接触、磨耗、腐食等の有無を点検する。</p>
(8)潤滑油系統	油の汚れの有無及び油量の適否を点検する。
(9)冷水及び冷却水系統	<p>①漏れの有無を点検する。</p> <p>②弁の開閉の良否を点検する。</p>
(10)排水系統	通水試験を行い、流れに支障のないことを確認する。
(11)運転調整	<p>①音・振動 異常のないことを確認する。</p> <p>②電源電圧・電流 a. 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。 b. 主電流、圧縮機電流及び送風機電流が規定値以下にあることを確認する。</p> <p>③冷媒ガス 高圧側及び低圧側の圧力、温度等の冷媒ガスの状態を把握するために必要な計測を行い、その値が許容範囲内にあることを確認する。</p> <p>④冷凍機油 油圧、温度等を計測し、その値が許容範囲内にあることを確認する。</p> <p>⑤熱交換状況 冷媒、冷却水及び冷水の温度等を点検し、熱交換状況が正常であることを確認する。</p> <p>⑥自動制御 温度、圧力、容量及びタイマー制御が設定値で作動することを確認する。</p>

空冷式チラーユニット（三菱製）保守点検業務個別仕様書

1 対象設備

機種・設置場所	数量	機種・設置場所	数量
CAV-P1180A2-P-BS (本館屋上設置)	2	CAV-P850A2-P-BS (本館屋上設置)	2
CAV-P850A-P (先端医学棟屋上設置)	6		

2 実施項目

実施内容	実施時期	備考
冷房シーズンイン点検	5月	実施内容については、「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。
暖房シーズンイン点検	11月	

3 実施内容

「建築保全業務共通仕様書」のとおりとする。

冷熱源機器（チリングユニット、空冷チラーユニット）	
「高圧ガス保安法」の適用を受けるものは、同法及び「冷凍保安規則」に定めるところによる。	
点検項目シーズンイン点検	
(1) 基礎・固定部	① 亀裂、沈下等の有無を点検する。 ② 固定金具の劣化及び固定ボルトの緩みの有無を点検する。 ③ 防振材、ストッパー等の劣化及び緩みの有無を点検する。
(2) 外観の状況	① 本体部の腐食、変形、破損等の有無を点検する。 ② 保冷材の損傷及び脱落の有無を点検する。
(3) 内部の状況	① 熱交換器 ファンコイルの汚れ、損傷等の有無を点検する。
(4) 付属品	① 温度計、圧力計 a. 正常値を指示していることを確認する。 b. 取付け部等の漏れの有無を点検する。 c. 汚れ及び損傷の有無を点検する。
(5) 電気系統	① 操作回路・動力回路 絶縁抵抗を測定し、その良否を確認する。 ② 端子 緩み、変色及び破損の有無を点検する。 ③ クランクケースヒータ a. 温度の異常の有無を点検する。 b. 絶縁抵抗を測定し、その良否を点検する。 ④ 操作盤 盤内の汚れ、異物の付着、緩み及び変形の有無を点検する。 ⑤ 電磁開閉器 異常音及び劣化の有無を点検する。 ⑥ 接地 断線及び緩みの有無を点検する。
(6) 保安装置	① 圧力開閉器 設定値で作動することを確認する。 ② 吐出ガス温度サーモ 作動の良否を点検する。

	③断水リレー 作動の良否を点検する。 ④インターロック 作動の良否を点検する。 ⑤冷水凍結防止サーモ 作動の良否を点検する。 ⑥可溶栓 変形、破損等の有無を点検する。
(7)冷媒系統	①ガス漏れの有無を点検する。 ②配管の損傷、接触、磨耗、腐食等の有無を点検する。
(8)潤滑油系統	油の汚れの有無及び油量の適否を点検する。
(9)冷水及び冷却水系統	①漏れの有無を点検する。 ②弁の開閉の良否を点検する。
(10)排水系統	通水試験を行い、流れに支障のないことを確認する。
(11)運転調整	①音・振動 異常のないことを確認する。 ②電源電圧・電流 a. 運転時における主電源電圧の変動が、規定値内にあることを確認する。 b. 主電流、圧縮機電流及び送風機電流が規定値以下にあることを確認する。 ③冷媒ガス 高圧側及び低圧側の圧力、温度等の冷媒ガスの状態を把握するために必要な計測を行い、その値が許容範囲内にあることを確認する。 ④冷凍機油 油圧、温度等を計測し、その値が許容範囲内にあることを確認する。 ⑤熱交換状況 冷媒、冷却水及び冷水の温度等を点検し、熱交換状況が正常であることを確認する。 ⑥自動制御 温度、圧力、容量及びタイマー制御が設定値で作動することを確認する。

フロンガス法定点検業務個別仕様書

1 対象設備

設置場所	系統数
本館	5 系統
北館	5 系統
循環器病センター	6 系統
PETセンター	4 系統
先端医学棟	31系統
サーバー棟	4 系統
アメニティ棟	1 系統
保育所	2 系統

2 実施回数

契約期間中に 1 回実施する。

3 実施内容

冷媒フロン類取扱技術者による外観点検及び直接法又は間接法による漏洩点検により、室内機及び室外機の運転状況を確認し、異音・異臭等の有無やフロンガスの漏洩の有無を確認する。

北館吸収式冷温水発生機冷却水回路整備個別仕様書

1 対象設備

機種	製品番号	設置場所	数量
吸収式冷温水発生機 (AUW-150E1G)	No.81422445	北館屋上	1
吸収式冷温水発生機 (AUW-150E1G)	No.81422446	北館屋上	1

2 実施時期

令和3年3月末までに実施

3 実施項目 ※数量は1式分の記載

(1) 冷却水系薬品洗浄及び過流探傷検査

交換部品等	数量	交換部品等	数量
スケール除去材	40kg	酸洗浄後排水中和剤	40kg
スケール除去材（シリカ）	20kg	銅用防食剤	8 kg
酸洗浄後中和防食剤	20kg		

(2) 冷却水系伝熱管過流探傷検査

(3) 冷却水系水室塗装・仕切り板交換作業

交換部品等	数量	交換部品等	数量
塗料	1 式	仕切り板	1 式
パッキン	1 式		

(4) 試運転調整

2. 業務工程表

[illegible]

- 27 -

院長	事務部長	次長	管理課長	管財係長	係員	担当

委託業務実施計画書

1. 委託業務名

2. 作業箇所

提出年月日	令和 年 月 日 (曜)	立入り	日前
作業予定年月日 及び作業人員	令和 年 月 日 (曜) 時 分 ～ 時 分	名	
	令和 年 月 日 (曜) 時 分 ～ 時 分	名	
	令和 年 月 日 (曜) 時 分 ～ 時 分	名	
	令和 年 月 日 (曜) 時 分 ～ 時 分	名	
	令和 年 月 日 (曜) 時 分 ～ 時 分	名	
内 容			
影響及び 安全対策			
作業責任者 氏名・連絡先			
本院への 依頼事項			

* 箇所ごとの作業工程等を詳細に記したものを別途添付すること。

上記のとおり作業を行うので申請します。

宛

作業責任者

印

作業責任者の個人印でかまわない。FAXでの送付も可とする。

院長	事務部長	次長	管理課長	管財係長	係員	担当

委託業務実施結果報告書

1. 委託業務名

2. 実施すべき内容

内 容	
-----	--

3. 実施した内容

実施年月日 人員内容	月 日	令和 年 月 日 (曜)	時 分 ~ 時 分	名
	実施内容			
	月 日	令和 年 月 日 (曜)	時 分 ~ 時 分	名
	実施内容			
	月 日	令和 年 月 日 (曜)	時 分 ~ 時 分	名
	実施内容			
	月 日	令和 年 月 日 (曜)	時 分 ~ 時 分	名
	実施内容			

* この用紙に記入し難い時は概略を記入し、詳細は適宜別紙としてかまわない。
点検結果等は、別途報告書を添付すること。

上記のとおり委託作業を実施したので、報告します。

令和 年 月 日

受託者

印

契約者の名義で作成し、契約書に押印した印を押印する。

院長	事務部長	次長	管理課長	管財係長	係員	担当

業務再委託実施承認願

令和 年 月 日

委託者 静岡県立総合病院長 様

住 所
受託者 商 号 印
代表者職氏名

令和 年 月 日付けで契約した令和 年度静岡県立総合病院空調設備保守点検業務委託について、契約書第 8 条に基づき、委託業務の一部を下記のとおり再委託したいので、承認願います。

記

1 再委託の内容	
2 再委託先	
3 再委託する理由	

令和2年度

静岡県立総合病院

設計書

令和2年度 静岡県立総合病院 空調設備保守点検業務委託

業務場所 静岡市葵区北安東4-27-1 静岡県立総合病院

¥					—	
令和2年度 静岡県立総合病院 空調設備保守点検業務委託						
内 訳						
名 称		数量	単位	金 額	摘 要	
	I 空調設備保守点検業務	1	式			
	II フロンガス定期点検	1	式			
	III 北館吸収式冷温水発生機冷却水回路整備	1	式			
	小 計					
消費税等相当額					小計×10% 円未満切捨	
合 計						

内 訳 書

名称	数量	単位	単価	金 額	摘 要
I 空調設備保守点検業務	1	式			
1 吸収式冷温水発生機保守業務	1	式			
① 本館HRB-1 パナソニック製 BUW-WE360FG					
暖房シーズンオフ点検	1	基			
冷却水系ブラシ洗浄	1	基			
冷房シーズンイン点検	1	基			
冷房シーズンオン点検	1	基			
冷房シーズンオフ点検	1	基			
暖房シーズンイン点検	1	基			
暖房シーズンオン点検	1	基			
冷却塔点検	2	回			
冷却塔清掃	2	回			
小計					
② 本館HRB-2・3 パナソニック製 BUW-300FGL					
暖房シーズンオフ点検	2	基			
冷却水系ブラシ洗浄	2	基			
冷房シーズンイン点検	2	基			
冷房シーズンオン点検	2	基			
冷房シーズンオフ点検	2	基			
暖房シーズンイン点検	2	基			
暖房シーズンオン点検	2	基			
冷却塔点検	2	回			
冷却塔清掃	2	回			
小計					
③ 本館HRB-4 パナソニック製 BUW-300FC					
暖房シーズンオフ点検	1	基			
冷却水系ブラシ洗浄	1	基			
冷房シーズンイン点検	1	基			
冷房シーズンオン点検	1	基			
冷房シーズンオフ点検	1	基			
暖房シーズンイン点検	1	基			
暖房シーズンオン点検	1	基			
冷却塔点検	2	回			
冷却塔清掃	2	回			
小計					
④ 北館RB-1・2 パナソニック製 AUW-150E1G					
暖房シーズンオフ点検	2	基			
冷却水系ブラシ洗浄	2	基			
冷房シーズンイン点検	2	基			
冷房シーズンオン点検	2	基			
冷房シーズンオフ点検	2	基			
暖房シーズンイン点検	2	基			
暖房シーズンオン点検	2	基			
冷却塔点検	2	回			
冷却塔清掃	2	回			
小計					

内 訳 書

名称	数量	単位	単価	金 額	摘 要
⑤ 先端医学棟 パナソニック製 BW-CP210FG1					
暖房シーズンオフ点検	2	基			
冷却水系ブラシ洗浄	2	基			
冷房シーズンイン点検	2	基			
冷房シーズンオン点検	2	基			
冷房シーズンオフ点検	2	基			
暖房シーズンイン点検	2	基			
暖房シーズンオン点検	2	基			
冷却塔点検	2	回			
冷却塔清掃	2	回			
小計					
2 ターボ冷凍機保守点検業務 荏原製 RTAS300E					
冷房シーズンイン点検	1	基			
冷房シーズンオン点検	1	基			
チューブ洗浄	1	基			
整備時標準交換部品	1	基			
潤滑油	1	基			
冷却塔点検	2	回			
冷却塔清掃	4	回			
3 空冷チラー保守点検業務					
① 本館 三菱製 CAV-P1180A2-P-BS	2	基			
② 本館 三菱製 CAV-P850A2-P-BS	2	基			
小計					
③ 北館 日立製 RHUJ1800AZG					
冷房シーズンイン点検	3	基			
暖房シーズンイン点検	3	基			
空冷チラー保安検査に伴う作業(圧力計検査・交換)	3	基			
小計					
④ PETセンター 三洋製 SCP-AHP500C					
冷房シーズンイン点検	4	基			
暖房シーズンイン点検	4	基			
小計					
⑤ 先端医学棟 三菱電機製 CAV-P850A-P	6	基			
小計					
4 諸経費	1	式			

内 訳 書

名称	数量	単位	単価	金 額	摘 要
Ⅱ フロンガス定期点検					
1 本館	1	式			
R-5 ターボ冷凍機 ※ I 2で点検のため除外	1	系統			
MAC-B1-1 厨房	1	系統			
MAC-B1-2 厨房	1	系統			
MAC-B1-7 調剤室	1	系統			
PAC-1D-1 1D内視鏡1～4	1	系統			
HPAC-H201 輸血HLA検査室	1	系統			
2 北館	1	式			
CR-1 チラーユニット ※ I 3③で点検のため除外	3	系統			
ACP-S101 X-CT撮影室	1	系統			
HPAC-S101 治療室(101)	1	系統			
HPAC-S102 UCG検査室	1	系統			
HPAC-S501 5階病室	1	系統			
HPAC-S502 5階病室	1	系統			
3 循環器病センター	1	式			
PAC-B1-1 地階電気室	1	系統			
PAC-1-1 1階MRI室2・3機械室	1	系統			
PAC-2-2 2階サーバ室	1	系統			
ACP-1-1 1階救急外来処置室診察室	1	系統			
ACP-1-3 1階救急ホール・病室・点滴室	1	系統			
ACP-1-4 1階待合ホール及び画像診断エリア	1	系統			
4 PETセンター	1	式			
PTHP-11 1階サーバー・電源冷却装置	1	系統			
PTHP-12 1階読影室	1	系統			
PTHP-13 2階回復室	1	系統			
PTHP-15 2階廊下	1	系統			
CR-1 チラーユニット ※ I 3④で点検のため除外	4	系統			
5 サーバー棟	1	式			
PAC-S-1-1 サーバー室	1	系統			
PAC-S-1-2 サーバー室	1	系統			
PAC-S-1-3 サーバー室	1	系統			
PAC-14 サーバー室	1	系統			
6 アメニティ棟	1	式			
ACP-1-1 食堂	1	系統			
7 保育所	1	式			
ACP-1-1 保育所 1階系統	1	系統			
ACP-1-2 保育所 2階系統	1	系統			

内 訳 書

名称	数量	単位	単価	金 額	摘 要
8 先端医学棟	1	式			
EHP-1-1 1階待合	1	系統			
EHP-1-2 1階放射線治療	1	系統			
EHP-1-3 1階中央滅菌材料	1	系統			
EHP-2-1 2階病理エリア	1	系統			
EHP-2-2 2階教育研修部(中央)	1	系統			
EHP-2-3 2階情報エリア	1	系統			
EHP-2-4 2階教育研修エリア	1	系統			
EHP-2-5 2階講義室	1	系統			
EHP-2-6 2階ラウンジ1ELVホール	1	系統			
EHP-3-2 3階面接室・前室	1	系統			
EHP-4-2 4階日帰り手術(事務)	1	系統			
EHP-4-4 4階4M病棟病室	1	系統			
EHP-4-5 4階HCU	1	系統			
EHP-4-6 4階日帰り手術	1	系統			
EHP-5-1 5階リサーチサポートセンター(南)	1	系統			
EHP-5-2 5階講義室	1	系統			
EHP-5-3 5階共用部	1	系統			
EHP-5-4 5階県大薬学部	1	系統			
EHP-5-5 5階共用部	1	系統			
EHP-5-6 5階臨床試験管理室	1	系統			
EHP-5-8 5階資料保管室1	1	系統			
EHP-5-9 資料保管室2	1	系統			
PAC-6-1 電気室	4	系統			
CPAC-1-1 中材	1	系統			
CPAC-3-1 3階手術ホール	1	系統			
CPAC-3-2 3階コントロール他	1	系統			
CPAC-4-1 4階4M病棟	1	系統			
CPAC-4-2 4階4M病棟	1	系統			
CPAC-4-1 空冷チラー ※ I 3⑤で点検のため除	1	系統			

内 訳 書

名称	数量	単位	単価	金 額	摘 要
Ⅲ 北館吸収式冷温水発生機冷却水回路整備					
RB-1 三洋製 AUW-150E1G №.81422445	1	台			
RB-2 三洋製 AUW-150E1G №.81422446	1	台			
① 準備作業	1	式			
② 冷却水系薬品洗浄及び過流探傷検査					
スケール除去剤	40	kg			
スケール除去剤(シリカ)	20	kg			
酸洗浄後中和防食剤	20	kg			
酸洗浄後排水中和剤	40	kg			
銅用防食剤	8	kg			
窒素加圧作業費	1	式			
廃液処理費	1	式			
洗浄作業費	1	式			
小計					
③ 冷却水系伝熱管過流探傷検査	1	式			
④ 冷却水系水室塗装・仕切り板交換作業					
塗料	1	式			
パッキン	1	式			
塗装作業費(乾燥・研磨・塗装・復旧)	1	式			
仕切り板	1	式			
交換作業費	1	式			
小計					
⑤ 試運転調整費	1	式			
⑥ 工具損料	1	式			
⑦ 消耗品雑材費	1	式			
⑧ 搬入用車両	1	式			
⑨ 諸経費	1	式			